

令和8年度研究推進計画

学校名 東広島市立磯松中学校

校長名 石川 憲之

1 研究主題等について

(1) 研究主題

主体的・協働的に学習に取り組む生徒の育成

～「自ら学ぶ力の育成」と「人とつながる力の育成」を通じて～

(2) 主題設定の理由

本校では、令和7年度は「主体的・協働的に学習に取り組む生徒の育成～「選択する機会」と「学び直しの機会」の設定「ポジティブ行動支援」を通じて～」を研究主題に掲げ、授業改善を進めた。

こうした取組により、課題のある生徒への個別の支援が充実し、生徒全体についても、一人一人の生徒が授業内容を理解できたという達成感を得ることで、学習意欲が向上し、本校が育成を目指す資質・能力、「主体力・協働力・表現力」を高めることができると考え、実践したものである。

その成果と課題は、生徒質問紙調査の結果から、次のように整理している。

<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 肯定的な回答をした生徒の割合が、「主体力」73.6%から80.9%、「協働力」が84.7%から86.8%、「表現力」が80.5%から84.4%に増加しており、取組の効果が表れている。</li> <li>➤ 「主体力」は昨年度末と今年度末を比較すると76.5%から80.9%と伸びている。</li> <li>➤ 「SEL-8S」では、生徒は学習することは楽しく、学習したスキルも役立つと感じているようで、自己への気づきや自己コントロール、対人関係の力を伸ばすことができた。</li> </ul>
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 肯定的な回答をした生徒の割合が、「協働力」・「表現力」と比較すると「主体力」が80.9%と数値がまだ低いので、<u>自分で決めたことに取り組んでいく機会を今後も意図的に設けていく必要がある。</u></li> <li>➤ とりわけ、一部の生徒において、難しい問題や自分が苦手なことに立ち向かっていく姿に課題があり、難しい問題に対してあきらめやすい傾向がある。中学生の時期は、友達目が気になり、失敗を避けたいので、<u>安心できる環境</u>でないと、わからない問題があっても、自ら支援を求めることが難しいと考える。なぜ、あきらめやすい傾向があるのか、理由を聞いた結果、「基礎・基本が定着していないから」「自分にできそうと思えないから」と答えた生徒が50%以上で、「どこまで分かっている、どこから分からないか理解度を把握していないから」が約30%だった。このことから、基礎・基本が定着していないと、自信がなく自分にはできそうにないと感じ、失敗を避けるために、進んで取り組むことができないのだと考えた。そこで、<u>基礎・基本の定着を図り、スモールステップで成功体験を積みせ自己効力感を高めていく必要がある。</u></li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 昨年度の習熟度テスト（5教科）や全国学力・学習状況調査（2教科）において、正答率が全国平均を下回っており、基礎・基本の定着が十分でない生徒が多かった。そこで、<u>授業における基礎・基本の習得及び定着、学習習慣の定着を企図した授業改善を進める必要がある。</u></li> <li>➤ 1年生で人間関係のトラブルが多く生じた。相手の気持ちを理解することや、相手の視点に立って考えること、自分の感情をコントロールすることに課題が見られたので、<u>SEL-8Sに取り組み、人とつながる力を高める必要がある。</u></li> </ul>
--	--

そこで、これらの課題を踏まえ、今年度は、難しい問題にもあきらめずに取り組めるようにするために、引き続きユニバーサルデザインの考え方に基づく授業づくりを進め、主体的に学習に取り組めるように、学習に対する動機付けをはかりたい。「白杉@EduAca」は、動機づけは「外発的」と「内発的」の二項対立ではなくて、グラデーションでつながっており、最初は外発的でもだんだん内発的になっていくこともあると述べている。そこで、学習の必要性を感じさせ、同一化的動機付けを高めることで、主体的に学習に取り組めることを目指したい。また、自己効力感が低い生徒に対しては目標を細分化し、スモールステップで確実に「できた」という体験を積み重ねさせたり、自分と似た生徒が、課題を達成・成功している様子を観察させたりして、うまくできたらポジティブにフィードバック与えて、自己効力感を高めたい。

対人関係の面では、SEL-8Sで学習したスキルが、その場限りのものとならないように、スキルの般化を促進させたり、行事と関連付けて、学習したスキルを使って活動させたりしたい。また、スマイルルームの生徒にもSEL-8Sの授業を行うことで、人とつながる力を高め、不登校支援につなげたい。ポジティブ行動支援は、学習面でも生活面でもあらゆる面で、望ましい行動を示し、望ましい行動ができたときや取り組もうとしている姿が見えたときは、肯定的な評価をするように取り組んだ。その結果、学習面だけでなく行事、生徒会活動などに主体的に向かう生徒が増えてきたので、今後も継続していきたい。

今年度は、学習や対人関係のベースとなる学級集団作りにも取り組み、安心・安全な環境の中で、お互いを認め合うことができるようにしていきたい。学級が安全で、居場所があれば、楽しく登校できるようになり、学習に対しても、教え合いができ、主体的・協働的に学習に取り組む生徒の育成につながると考える。

「安心・安全な学級づくり・ポジティブ行動支援」をベースに研究部を中心に個別最適な学びと協働的な学びの一体的な推進に取り組んで、ユニバーサルデザインの考え方に基づく授業づくりを進め、学習に対する動機付けのレベルアップを図り、自己効力感を高めることで、自ら学ぶ力の育成に取り組む。また、生徒指導部を中心にSEL-8Sとピア・サポート活動を実施し、人とつながる力の育成に取り組めば、生徒一人一人の「授業が分かった」「自分で学習できた」「学校が楽しい」という達成感を涵養し、「さらに学びたい」という学習意欲を高め、主体的な学習者の育成ができると思った。

### (3) 研究仮説

授業等で、個別最適で協働的な学びの一体的な推進を図り、「自ら学ぶ力を育成」し、SEL-8S、ピア・サポート活動による「人とつながる力の育成」を図れば、生徒一人一人の「授業が分かった」「自分で学習できた」「学校が楽しい」という達成感を涵養し、「さらに学びたい」という学習意欲を高め、主体的な学習者の育成ができるのではないかと。

#### (4) 研究内容

##### 【自ら学ぶ力の育成】

##### (1) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な推進

###### ア ユニバーサルデザインの考え方に基づく授業づくり **【継続】**

###### ① 焦点化

- ・授業内容の本質を見極め、授業構成をシンプルにする。
- ・授業の「山場づくり」、発問・ヒントを工夫する。

###### ② 視覚化

- ・生徒の意見や教科等として重要な語句等を中心に板書する。
- ・ICTを日常的に活用し、分かりにくいところを視覚化して提示する。

###### ③ 共有化

- ・ペアやグループによる一次共有、全体による二次共有を行う。
- ・自分の言葉で説明して、考えを他者と共有するような場を充実させる。

###### ④ 時間の構造化

- ・本時の「ねらい」を板書し、授業展開をホワイトボードで示す。

###### イ 学習に対する動機付けのレベルアップ **【新規】**

###### ① 外発的動機付けから内発的動機付けへレベルアップする

- ・外的（罰やご褒美：叱られるから、ご褒美がもらえるから）→取り入れ的（人の目、ばかにされたくないから）→同一化的（必要感：大事なことから）→統一的（価値観：自分の価値にあうから）→内的（それ自体：やること自体が楽しい）
- ・その単元や本時の学習の必要性を理解させ、同一化的動機づけを目指す。

###### ② 自律性を高める **【重点】**

- ・「理解したい」「できるようにになりたい」という有能さへの欲求を満たすために、基礎・基本の習得及び定着をはかる。
- ・「自分で選びたい、自分で決めたい、自分でやりたい」という自律性への欲求を満たすために、選択する機会を設定する。
- ・「自分の関わる人達とより深く関わりたい」「人の役に立ちたい」という関係性への欲求を満たすために、教え合いや協働学習を取り入れる。

###### ウ 自己効力感を高める **【新規】**

###### ① 成功体験を積み重ねる。 **【重点】**

- ・小さな目標（スモールステップ）を設定し、成功体験を積み重ねさせる。

###### ② モデリング

- ・自分と似た生徒が、課題を達成・成功している様子を観察させる。

###### ③ ポジティブなフィードバック

- ・うまくできたらほめるなどのフィードバックを与える。

##### 【人とつながる力の育成】

###### エ ピア・サポート活動の実施 **【継続】**

- ① 体育大会など縦割り行事を通じた異学年交流におけるピア・サポートを計画し、取り組ませる。

## オ SEL-8S の意図的・計画的な実践 **【継続】**

- ① 年間計画に従って、全学年で「SEL-8S」のスキルトレーニングを実施するとともに、ポスター掲示により学習した内容を意識する環境をつくる。
- ② SSR でSEL-8S を実施する。

### (5) 検証の方法及び指標

検証の方法：生徒全員について質問紙調査の結果を取組前後で比較・分析する。

指標：各質問項目において肯定的回答をした生徒の割合が増加取組後に80%以上

## 2 検証計画

- (1) 7月と2月に生徒全員を対象とした「学習や授業に関する質問紙調査」を実施
- (2) 8月と2月の校内研修、各教科でのブロック研修において、生徒の姿により協議・検証

## 3 校内研修計画

- |        |   |
|--------|---|
| 4月     | 研究推進計画を定め、共通認識を図る。  |
| 5月     | 取組の具体と学習指導案作成について共通認識を図る。   |
| 5月～7月  | 各教科においてブロック研修を実施する。   |
| 6月     | 研究内容に係る研修を実施するとともに、研究の進捗状況を確認する。                                      |
| 7月     | 生徒対象の「学習や授業に対する質問紙調査」(1回目)を実施し、分析する。                                  |
| 8月     | 研究内容に係る研修を実施するとともに、研究の進捗状況を確認する。                                      |
| 8月     | 前期前半の振り返りと、今後の取組について協議する。   |
| 9月～11月 | 各教科においてブロック研修を実施する。   |
| 9月～10月 | 研究内容に係る研修を実施するとともに、研究の進捗状況を確認する。                                      |
| 2月     | 生徒対象の「学習や授業に対する質問紙調査」(2回目)を実施し、分析する。<br>併せて、各自の実践を交流し、本年度の成果と課題を整理する。 |
| 3月     | 次年度の研究の方向性を検討する。  |

## 4 研究公開の予定について

令和9年度に公開予定。

# 研究構想図

東広島市立磯松中学校

## 学校教育目標

### 確かな学力を身に付け、心豊かで活力にみちた生徒の育成

#### 【本校が育成を目指す資質・能力】

- ① 主体性 … 目標を定め、その達成に向けて、ねばり強く取り組む力
- ② 協働性 … 多様な人々と協働し、よりよいものを創造していく力
- ③ 表現力 … 自分の考えを相手に分かりやすく伝える力

## 研究主題

### 主体的・協働的に学習に取り組む生徒の育成 ～「自ら学ぶ力の育成」と「人とつながる力の育成」を通じて～

主体的な学習者の育成

「授業が分かった」、「自分で学習できた」、「学校が楽しい」という達成感の涵養 → 「さらに学びたい」という学習意欲の向上

#### 磯松中ならではの「自ら学ぶ力の育成」

研究部を中心  
に推進

##### ア ユニバーサルデザインの考えに基づく授業づくり

- ① 焦点化 授業構成・山場づくり・発問・ヒントの工夫
- ② 視覚化 板書の工夫、ICT等による画像提示
- ③ 共有化 ペアやグループによる意見の一次共有、全体による二次共有
- ④ 時間の構造化 「ねらい」の板書、授業展開を示すホワイトボード

##### イ 学習に対する動機付けのレベルアップ【新規】

- ① 外発的動機付けから内発的動機付けへレベルアップ
- ② 自律性を高める【重点】

##### ウ 自己効力感を高める【新規】

- ① 成功体験を積ませる。【重点】
- ② モデリング
- ③ ポジティブなフィードバック

#### 磯松中ならではの「人とつながる力の育成」

生徒指導部  
を中心に推進

##### エ 生徒同士が助け合い・支え合う機会(ピア・サポート活動)の実施【継続】

- ① 体育大会など、学年縦割り行事を通じて異学年交流を深める。

##### オ SEL-8S の意図的・計画的な実践【継続】【重点】

- ① 全学年での SEL-8S の実施
- ② SSR での SEL-8S の実施

現状

教科学力・学習意欲・学習習慣の定着に課題がある。人とのつながりをつくるのが苦手な生徒が多い。

学校教育目標

確かな学力を身に付け、心豊かで活力にみちた生徒の育成

【本校が育成を目指す資質・能力】

- ① 主体性 … 目標を定め、その達成に向けて、ねばり強く取り組む力
- ② 協働性 … 多様な人々と協働し、よりよいものを創造していく力
- ③ 表現力 … 自分の考えを相手に分かりやすく伝える力

研究主題

主体的・協働的に学習に取り組む生徒の育成  
～「自ら学ぶ力の育成」と「人とつながる力の育成」を通じて～

主体的な学習者の育成

「授業が分かった」、「自分で学習できた」、「学校が楽しい」という達成感の涵養 → 「さらに学びたい」という学習意欲の向上

研究部を中心に推進

自ら学ぶ力の育成

取組

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な推進

- ・UD の考え方に基づく授業づくり
- ・学習に対する動機付けのレベルアップ
- ・自己効力感を高める

現状

- ・学習意欲に課題がある。
- ・学習習慣の定着に課題がある。
- ・学習内容の定着に課題がある。

背景

安心して学べない。  
勉強が分からない。  
基礎・基本が定着していない。  
学ぶ意義が分からない。  
自己効力感が低い。

不登校支援

- ・SSRの設置及び運営
- ・組織的な学校体制の構築

安心・安全な学級づくり・ポジティブ行動支援

- ・安心・安全な学級・学習環境作り
- ・つながろうデーを通じた学級交流の実施
- ・生徒の望ましい行動を引き出し、適切な評価の実施

現状

- ・学習意欲に課題がある。
- ・学習習慣の定着に課題がある。
- ・学習内容の定着に課題がある。

背景

安心して学べない。  
勉強が分からない。  
基礎・基本が定着していない。  
学ぶ意義が分からない。  
自己効力感が低い。

人とつながる力の育成

生徒指導部を中心に推進

取組

ピア・サポート活動

- ・体育大会など縦割り行事を通じた異学年交流におけるサポート

SEL-8S

- ・全学年での「SEL-8S」の実施
- ・SSRでのSEL-8Sの実施

現状

- ・人とのつながりをつくるのが苦手である。
- ・自分で問題を解決できない。
- ・不登校気味や、不登校の生徒が多い。

背景

自己表現が苦手である。  
自分の感情や他人の気持ちを理解できない。  
正しいかわり方を知らない。  
感情のコントロールができない。  
不登校生徒が多い。

授業をされる先生、希望日を記入して、山中先生に提出してください。締め切り 4月17日（金）

	授業者	希望日（第3希望まで）	担当の指導主事
国語		月 日（ ）	
		月 日（ ）	
		月 日（ ）	
社会		月 日（ ）	
		月 日（ ）	
		月 日（ ）	
数学		月 日（ ）	
		月 日（ ）	
		月 日（ ）	
理科		月 日（ ）	
		月 日（ ）	
		月 日（ ）	
英語		月 日（ ）	
		月 日（ ）	
		月 日（ ）	
保健体育		月 日（ ）	
		月 日（ ）	
		月 日（ ）	
音・美・ 技家		月 日（ ）	
		月 日（ ）	
		月 日（ ）	

## 5 研究部の役割分担

	内容	担当
研究推進	研究推進計画立案、校内研修企画・運営、授業研究の企画・運営	梅原・江村
	ブロック研修の指導案の見本の作成・指導案点検	梅原・江村
	校内外研修（教育センター・指定研修・教育実習）	新田
	ブロック研修の希望日集約・指導主事等の派遣日の調整	山中
	派遣申請・ブロック研修指導案の表紙・日時・メモ欄などの作成	新田
	アンケートの実施・集計・分析	小田原・梅原
学力向上	全国学力・学習状況調査等の分析と対策推進	山中
	学力向上に向けての取組推進	梅原・江村
	教科の授業評価表の作成	梅原
図書指導	朝読書の推進・読書指導の推進（ビブリオバトル含）	今田
	学校図書館の管理・運営・図書の購入・管理・図書館通信	今田
ICT教育	GIGA スクール構想の効果的な推進	小田原
	情報教育の利用計画の立案推進	小田原
	ICT（視聴覚）活用の研修の企画・案内	小田原
	情報機器管理の意識啓発の推進	小田原
SEL-8S	SEL-8Sの計画・準備、ピア・サポートの計画・準備 （瀬尾先生と生徒指導部と一緒に進める）	1 江村 2 小田原 3 山中

今後の見通し ※5月の校内研修で、ICTの研修、指導案の書き方等を紹介